

# 経営比較分析表

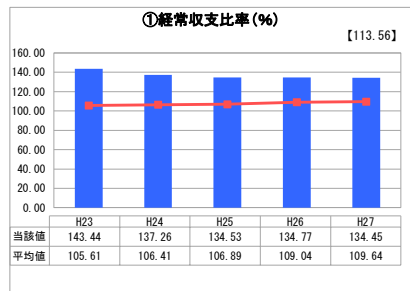
福岡県 筑後市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	91.70	78.09	3,520

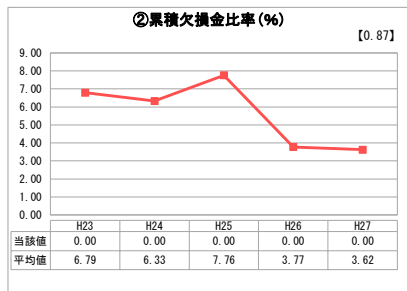
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
49,139	41.78	1,176.14
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
38,686	41.85	924.40

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
□	平成27年度全国平均

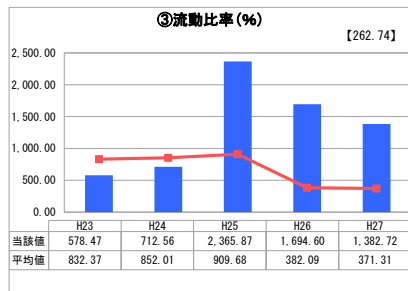
## 1. 経営の健全性・効率性



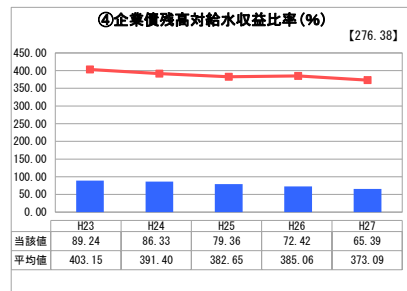
「経常損益」



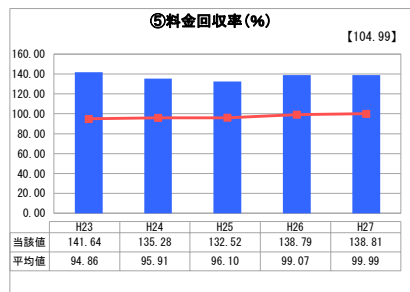
「累積欠損」



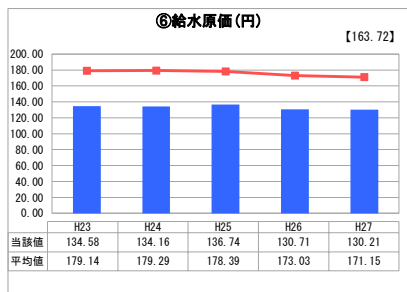
「支払能力」



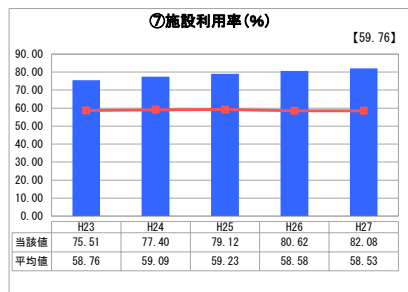
「債務残高」



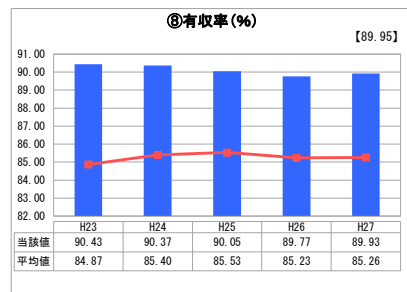
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

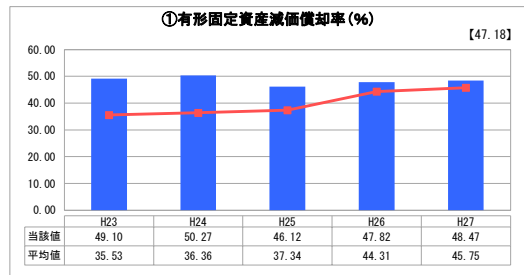


「施設の効率性」

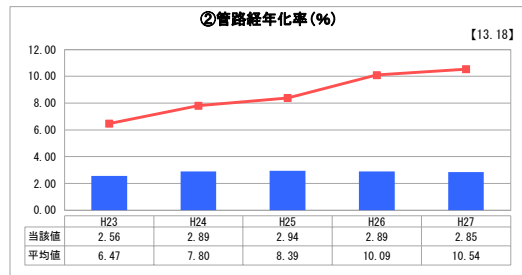


「供給した配水量の効率性」

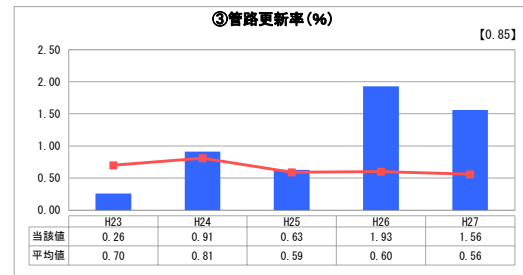
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率や累積欠損金比率等から、健全で効率的な経営状況であるといえる。ただし、施設利用率は上昇しているものの有収率は伸びていないことから、今後は有収率を改善し収益を上げていかなければならない。流動比率や企業債残高も良好であり、全体としては概ね安定し効率的な運営がなされているものと判断できる。

### 2. 老朽化の状況について

管路経年化率は2%台で推移し、平均の伸びと比較しても低い水準であり更新が進んでいる状況である。平成26年度より管路更新事業を着手したことにより更新率は大きく上昇しており、老朽化対策は順調に進んでいるといえるが、今後も老朽化は進行していくため、将来にわたって十分な対策が必要である。

### 全体総括

全国平均、類似団体平均と比較すると、経営状況は良好であるが、課題としては有収率を改善しより収益をあげる必要がある。今後は、更なる経費削減に努めるとともに、将来的な料金収入等の動向を見据えながら、計画的に必要な設備投資を行うことが求められる。老朽化対策は概ね順調に進んでいるが、減価償却率が比較的高い状況であるため、早期に事業を拡大する等対策への投資を推進すべきである。現況では経常損益、債務残高が良好であるもののやや投資控えの状況にあるため、今後は計画的な管路及び施設等の老朽化対策を実施していくことが望まれる。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。